

2月如月の思い出

2024-2-10

野口幹夫

2月はいろいろ思い出の詰まった月である。自分の誕生日が2月20日で、妻の誕生日が19日。たまたま珍しくつながった夫婦だ。今乗っている車タントのプレートナンバーも19-20にしてある。

毎年この2月に旅行を計画する。中でも印象深いのは2007年2月出雲大社の公式参拝旅行だった。当時の記録を再録すると。

「二〇〇七年二月出雲大社公式参拝のツアーに行った。巨大な注連縄の拝殿に上がった。白の肩衣をつけて着座すると、やがて白衣衣冠の神主や巫女が登場した。二人の神主が朗誦する祝詞



は聞きなれない美しい和声をなして、堂々と響きわたった。「さきくたま、くしみたま」が聞き取れた。これはなんのこと？」

この素朴な疑問から、当時はまだ夫婦とも元気だったから、そのあと10年かけて日本中の神社群をめぐり、そこから発展して、各地の縄文 弥生 古墳時代の遺跡をめぐった。その記録と考察を「日本原記」として本にまとめた、その内容はその都度 高津5期のHPに掲載させてもらった。

今年も 間もなく熱海と初島への小旅行を計画している。もう遠くへは行けなくなったが、近くでも満足して継続できることが幸いだ。

2月の思い出は サラリーマンを卒業してからの10年のことだが、所得税の確定申告だ。初めは税務署

の出張所に並んで届けたが、ここ数年はPCのE-Taxで自宅で全部おわり 楽になった。と思っていたら、ことはさらに進歩して 今年パソコンとスマホとマイナンバーカードと3つを連携してやるようになった。何となく厄介だと予感がしたが、やはりぼろが出て、スマホの操作で何



故かぐるぐる回り、ついに投げ出した。税務署に聞いたら同じような方が多くいらっしゃるのですが、相談の窓口が予約制で、朝8時一番でお並びいただき予約番号をとっていただきます、とのこと、そして今年はまだ出張所に並ぶことに逆戻りだ。ITの進歩についていけないみじめさを味わった。

税務署への提出の方式はともかく、この確定申告に欠かせないのは1年間の医療費の集計だ。この作業は昔と変わらず病院や薬局の領収書を月ごとに集めて集計する。まとめて気づいた、今年は何年来の中で一番少ない。入院がなかったからだ。これが少ないと医療費控除が少ないので 追徴税額は増える。この数年で一番多くなった。でもそれはいいことではないか、健康で過ごせた1年であったと祝いたい。

以上